

サポクラ 通信

令和4年(2022年)10月号

今月の内容は...

- ・寒帯館のあれこれ1
- ・ゾウの好き嫌い！？～Part2～4
- ・㊦ウメキチお誕生日7
- ・放飼場の中にある木組9

寒帯館のあれこれ

いつもご支援ありがとうございます。

アムールトラとユキヒョウを担当しています、工藤です。

今回はネタがたくさんありますのでいつもとは趣向を変えたサポクラ通信にしたいと思います。

まず1つ目。

実は先月9月上旬に2週間のお休みをいただき、プライベートでユキヒョウの生息地の1つであるキルギスへ行ってきました。

皆さん、「キルギス」という国名を聞いたことはありますか？

私は正直ユキヒョウ担当になるまで聞いたことのない国でした。



緑色が日本、赤色は中央アジア5か国を示し、青色で囲われたところがキルギスです。

キルギス人は日本人ととても顔が似ているといわれており、大昔に魚好きは日本へ、肉好きはキルギスへ行ったともいわれています。

キルギスは以前、ソ連国連邦だったのでロシア風の方も多くいましたが、確かにキルギスでは日本で一度は見たことがあるような顔の方が多かったです。



お二人とも
キルギス出身。
左の方はやや
ロシアの雰囲気か
ありますが、右の
方は日本人にも
似ていますね。

今回はユキヒョウの保全活動をしている団体 twinstrust のユキヒョウ調査に無理を言って同行させていただき、キルギスへ行く1か月前に渡航が決まりました。

今回はユキヒョウを探す調査ではなく、ユキヒョウが現れそうなところにトラップカメラを設置することが目的の調査であったため、キルギスに300頭前後しかいないというユキヒョウは残念ながら直接見ることはできませんでしたが、おそらく彼らは私たちを見ていたことでしょう。

現地についてユキヒョウの棲む気候を肌身で感じてきました。

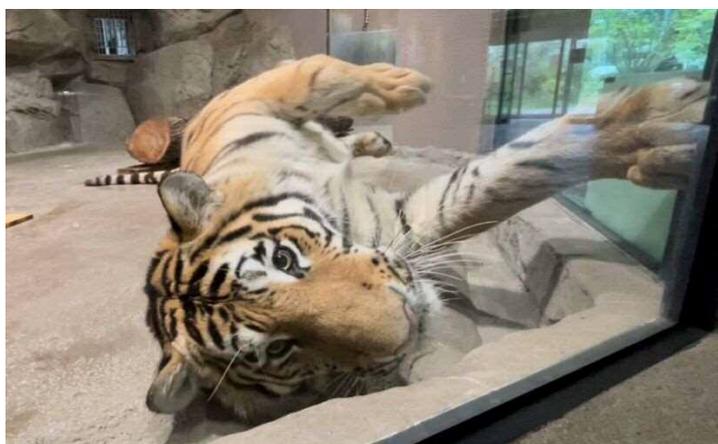
約2週間渡航し、サポクラではお伝えしきれないほど、かなり濃密な時間を過ごしたのでサポクラでのご報告はここまでにして、近々皆様に直接熱く語れる機会を設けたいと思いますので、その際はぜひお越しいただければと思います。

さて、2つ目。最近アムールトラのトートが円山動物園へやってきました。

※トート:2021年2月17日生まれのオス。浜松市動物園より来園。

以前当園で飼育していたアムールトラのアイはメスで、さらに私がトラ担当になった時にはすでに高齢でした。そのためアイとはかなりサイズ感も身体能力も異なるのだらうと予想していました。トートが無事10月12日に来園し、数週間トートと過ごしてみて彼のオスとしての大きな身体や若齢ゆえの純粋さを肌身で感じ取っております。

これからはトートが悔いなく楽しい「虎生」を送れるように、飼育員として全力でサポートしていきますので、皆様ぜひトートに会いに来てください。



そして3つ目。10月23日は世界ユキヒョウの日でした。

年々大きくなっていくイベントの1つです。

担当1年目:何もできずに終わる

担当2年目:寒帯館観覧通路にてユキヒョウについて知っていることを来園者の方へ書いていただく参加型展示と特別ガイドを実施

担当3年目:寒帯館観覧通路でのパネル展示と寒帯館バックヤードツアーを実施

そして4年目は外務省と先述したtwinstrustとともに、パネル展示や中央アジアの民族衣装・伝統品の展示、講演会を共催で行いました。

動物園展示といえば、ユキヒョウなどの動物を見て保全について感じてもらう・動物について知ってもらうことなどということが多いと思いますが、今回は動物(ユキヒョウ)の生息する地域の文化や伝統を知ることユキヒョウ保全へつなげたい、ということテーマとして行いました。

皆さんにユキヒョウの生息する国の文化や伝統を少しでも感じていただけましたら幸いです。

そして残念ながらお越しいただけなかった方はYouTubeのアーカイブ配信をご覧いただければと思います。



左:特別展示の様子 右:講演会の様子

これからもアムールトラとユキヒョウの飼育に注力をし、「行動あるのみ精神」で頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

ゾウの好き嫌い！？～Part2～

みなさまこんにちは。

アジアゾウ担当の野村です。いつもご支援いただきありがとうございます！令和2年度のサポクラ通信で、「ゾウの好き嫌い！？」と題し、餌となる樹木にも好き嫌いがあるということをご紹介させていただきました。それから約2年が経過し樹木



を与えられる機会も増え、これまでに与えた樹種は計 45 種となりました。その中でゾウたちの嗜好性もかなりわかってきたので、Part2 として少し詳しくご紹介します！（次ページ）

※あくまで担当者目線です。本当のところはゾウに聞いてみないとわかりません・・・！

そもそも樹木を与えるメリットって！？

①採食時間の延長

当園のゾウたちの夜間の行動調査を行った際、樹木を与えた日は、与えていない日に比べて採食時間が延長していることがわかりました。野生のゾウは、起きている時間の大半を、エサを食べることや、エサを探して歩き回ることに費やしています。そのため、動物園でもできるだけ採食時間が長く、暇な時間が短くなるように工夫をしています。

②栄養面

樹木は、乾草と比べると栄養価が低く、繊維質が多くなります。栄養価が低いものを大量に食べているゾウにとって、動物園で与えている乾草は少し栄養価が高すぎるため、乾草に代わって樹木を与えることで太りすぎを防ぐことができます。

③景観の変化

樹木を与える際、地面に立てたり上から吊るしたりして与えることがあります。これによって放飼場内の景色が変化し、ゾウたちにとっては視覚的な刺激、また来園者のみなさんにとってはゾウの生息地を想像しやすくなるというメリットがあるのではないかと考えています。

木支ごとバキバキ食べる!

好き【20種】

太めの木支
バリバリ食べます

キリン用に本州から
見購入しています
キリンが食べ残したのを
もってきてます

カエデ類は
基本的に
好き

- | | | | |
|---------|------|--------|-------|
| イタヤカエデ | ハルニレ | ウダイカンバ | シラカシ |
| ヨロヅカエデ | オヒョウ | ハンキ | マテバシイ |
| ギンヨウカエデ | センキ | ミズナラ | クヌギ |
| クロビイタヤ | ケヤキ | コナラ | ヤマモモ |
| ハウチワカエデ | シラカバ | アカナラ | ヤマモミジ |

どんぐりがなる木はだいたい好き

食べるけど、結構残る...

好きだけど、楕円は
ほがしづらひので残ります

3. つう【5種】

- | | |
|-------|---------|
| クワ | ネグンドカエデ |
| カワヤナギ | サトウカエデ |
| ハギ | |

最初は食べたのに
回数を重ねると残すおかし
なりました

だいたい好きなの
カエデ類の中でも
少し残りがち

においかいぞい

嫌い【20種】

食べないのを逆手に
とって屋外放飼場の
緑化に使用しています

キリンの残り枝に
入ってますが、コレだけ
きれいに残ります

エランドやキリン
サルたちは
食べるのに...

- | | | | |
|-------|----------|------|---------|
| カツラ | エゾエノキ | クズ | トウネズミモチ |
| トチノキ | オオバボダイジュ | サクラ | ホオノキ |
| アオダモ | キタユヅ | ミズキ | ヤマグワ |
| ヤチダモ | ドロヤナギ | シナノキ | ユキヤナギ |
| プラタナス | ホップラ | ハシドイ | アキグミ |

美味しそうな
実がたくさん
ついていても
1-タチ...

街路植や公園で
よく見かけます

成長が早いので
食べてくれたら
よかったな...

ライラックの
原種です

園内の植栽にたくさん
利用しています

ゾウの餌となる樹木をどうやって手に入れるか、ということは、ゾウたちがやってきた当初からの大きな課題でした。

ゾウがやってきてもうすぐで丸4年、現在は年間を通して札幌市内の林業現場で産樹木を購入し、入手することが可能になりました。また、ほくでんネットワークや白い恋人パーク、北大植物園など、剪定枝を寄付していただける機会も増え、たくさん樹木を手に入れるようになってきました。これからもいろんな種類の樹木を、年間を通してたくさん食べてもらえるように努力していきます。

今後も樹種が増えたり、今食べているものの嗜好性にも変化があったりすると思いますので、いつかまたご紹介できればと思います。ゾウが枝を食べていたら、何の種類かな～？？と観察してみてください！



先日 HP 等で発表いたしました、パールの妊娠が確認されました！パールが無事に出産の日を迎えられるよう、現在急ピッチで準備を進めています。パールは特に体調に変化はなく、いつも通りの毎日を過ごしています。これからもあたたかく見守ってください！



祝 ウメキチお誕生日

円山動物園サポートクラブのみなさま、いつもありがとうございます。マレーグマを担当している柏淵です。今回は 10 月 11 日に 13 歳の誕生日を迎えたマレーグマ・ウメキチのお話です。

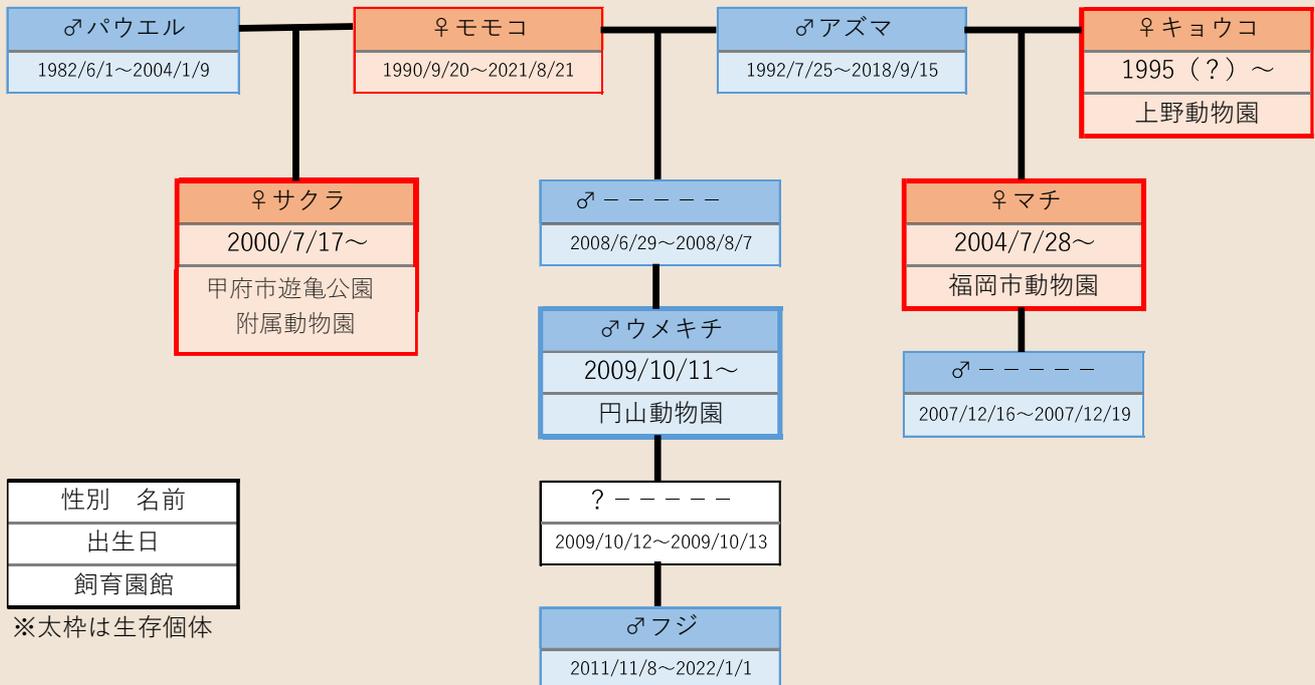
ウメキチ誕生

マレーグマ・ウメキチは 2009 年 10 月 11 日、東京にある上野動物園東園の「クマたちの丘」という場所で、お父さんはアズマ、お母さんはモモコの間にも生まれました。その後順調に育ち、翌 3 月に公募によって、「ウメキチ」と命名されました。マレーグマは木登りが得意で、ウメキチも子どもの頃から、周りの心配をよそに運動場の木に登っていたそうです。

右の写真は 2011 年 7 月に円山動物園に来てから初めて屋外展示場に出た時のウメキチです。



ウメキチの家系図



ウメキチと血縁関係がある個体ですが、上野動物園のキョウコとパウエルは直接の血縁者ではありません。

2022 年の時点でウメキチの近い血縁者はサクラとマチとなっております。

生涯群れで生活する我々ヒトの気持ちとしては、親兄弟と離れて暮らし、その生死もわからないということは非常につらく悲しいことと、感傷に浸ってしまいますが、繁殖期や子育て以外は基本的に単独生活をする

クマでは、気持ちも全く違うでしょう。単独生活の動物というのは夫婦であっても親子であっても一旦離れてしまえば次に会ったときは、自分の縄張りにいるただの他のクマというドライ(?)な生態です。ですがもし、サポートクラブの皆さんの中で山梨、福岡に旅行に行かれる方がいらっしゃいましたら是非、動物園に立ち寄ってウメキチのお姉さんに会って「ウメキチは元気に 13 歳になったよ！」と教えてあげてください。よろしくお願いいたします。

お誕生日プレゼント

ウメキチの誕生日にお客様から竹のプレゼントを頂きました。いつもウメキチのことを気にかけていただいているお客様には大変感謝しております。持病のてんかんの投薬治療のため食べ物の寄付を辞退していることにつきましては当園職員みな心苦しく思っております。毎日元気に見えるウメキチですが、外見・行動などの観察からは判断しにくい病気(アレルギーなど)に対する対応とご理解していただきたいと思ひます。



いつも使っている浮き球フィーダー(給餌器)は、すでに簡単にエサを食べることができるようになっているので、今回プレゼント頂いた竹フィーダーは少し難易度を上げてみました。なかなか苦戦していましたが、

なんとか中のエサを取ることができました。

ウメキチは年齢的にはもう十分成獣ですが、時おり子どもみたいなことをして遊んでいます。そんなウメキチをこれからもどうぞよろしくお願いいたします。



放飼場の中にある木組

皆さんこんにちは。エゾシカ担当の弓山です。今月のサポクラでは、エゾシカ放飼場の中にある木組についてお話ししようと思います。



皆さんもう目にされたかと思いますが、エゾシカの放飼場内に大きな木組を設置しました。何なのか気にされた方も多いと思います。この木組は植生保護柵といい、エゾシカによる食害や踏圧から植物を保護するための柵です。

北海道各地で問題となっているエゾシカによる植物への被害を防止する方法として、このような柵が注目されています。人工物を使わず、自然にある木や枝を利用することで、環境への負荷を軽減し景観も損なわないというメリットがあります。また鳥や爬虫類、虫などの様々な生き物が住処すみかとして利用することもあります。

最初に作った植生保護柵は、あまり高さがなく隙間もあることで設置した次の日には柵内にエゾシカの入った痕跡があり、作り直さないとだめだなと思いました。エゾシカも初めて見るので反応は良く、メスは枝についている葉を食べ、オスは角擦りをして角を研いでいました。



↓こちらの写真はオスが柵内に入って休もうとしている写真です。



他にもメスも柵内に入って散策したりしていました。この時はまだ柵内に植物を植えていなかったので入られても大丈夫でしたが、後々植物を植えるので新たに植生保護柵を作り直しました。

↓それがこちらになります↓



前回の反省を生かし、以前より高さを付け、頭や体を入れることが出来る隙間もなくなりました。様子を観察していると、前回とは様々な反応の違いを見ることが出来ました。また、円山動物園で行っている春国岱しゅんごくたい(根室市)での保全活動と関連させて、植生保護柵内に海浜性植物のハマナスの植え込みも行いました。



今後はエゾシカから植物を守る様子を見ていただき、北海道における環境問題や保全の取り組み、エゾシカについて知るきっかけになればいいなと思っています。今後の変化や活動を楽しみにお待ちしております！

